

読書のすゝめ

その 31

H 28

10 / 21

第70回 読書週間

『いざ、読書。』

10月27日（水）から11月9日（水）までの14日間（文化の日を中心にした2週間）



この期間は、書店や図書館でさまざまな本の特設コーナーが組まれています。どんな本を読んだらいいのかわからないという人は、この時期に設置される特設コーナーから一冊手に取ってみてはいかがでしょう。新しいジャンルに興味が出てくるかもしれません。

※標語・ポスターについて

公益社団法人 読書推進運動協議会が毎年秋に翌年の標語を募集しています。標語が決定してからポスターを募集します。今年度の標語は「いざ、読書。」。ポスターは図書館にも掲示してあります。

次の標語・ポスターの作者はみなさんの番？



【標語作者のことは】増井俊資さん（石川県）

本を選ぶのは楽しくもあり、むずかしくもあります。好きな作家・ジャンルあるいは装丁など、なんども目移りしながらようやく選んだ一冊は、はたして自分を震えさせてくれるのか。それは読んでみないとわかりません。満を持しての1ページ。いざ、読書。

【ポスター作者のことは】吉川ケイタさん（東京都、デザイナー）

人それぞれの「いざ、読書。」寝る前、通勤・通学中、不意に空いた時間、それは突然やって来ます。そして、一度開けば別世界へ。本はお手軽な魔法のツールなのです。さあみなさん、いつでもどこでも「いざ、読書。」

※読書週間の歴史

終戦まもない1947年（昭和22）年、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社・取次会社・書店と公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって、11月17日から、第1回『読書週間』が開催されました。そのときの反響はすばらしく、翌年の第2回からは期間も10月27日～11月9日（文化の日を中心にした2週間）と定められ、この運動は全国に広がっていききました。

そして『読書週間』は、日本の国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民の国」になりました。

いま、電子メディアの発達によって、世界の情報伝達の流れは、大きく変容しようとしています。しかし、その使い手が人間であるかぎり、その本体の人間性を育て、かたちづくるのに、「本」が重要な役割を果たすことは変わりありません。

暮らしのスタイルに、人生設計のなかに、新しい感覚での「本とのつきあい方」をとりいれていきませんか。

※いばらき読書フェスティバル

古本フリーマーケットや本の修理体験教室、スペシャルおはなし会などのほか、行方市出身で今年度課題図書となった『タスキメシ』の作者額賀澤さんの講演会も開かれます。

詳しい内容は図書館前の掲示板をご覧ください！

マークの話

古代のギリシャ人たちは、賢そうな丸い目に大きなメガネをかけた、すまし顔の「ふくろう」を知恵の象徴として大切にしています。森の奥ふかく、静かに瞑想にふけるこの「ふくろう」の姿こそ、読書週間のシンボルマークとしてもふさわしいものと考え、読進協では長い間使用してきました。

